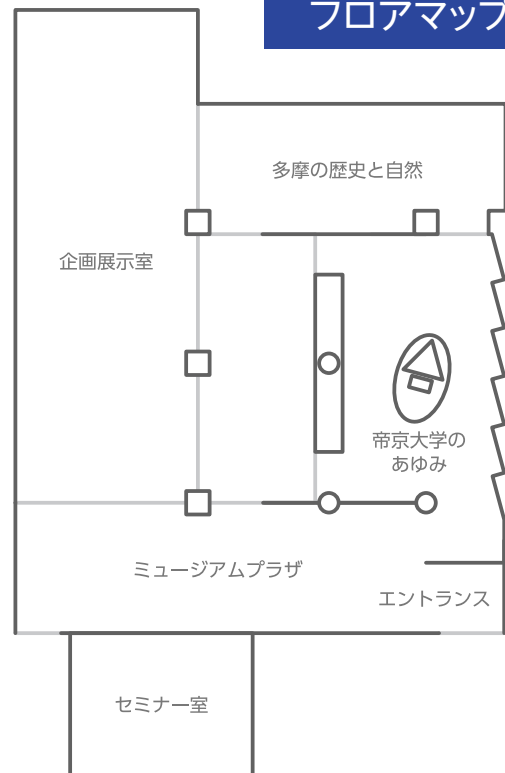


フロアマップ

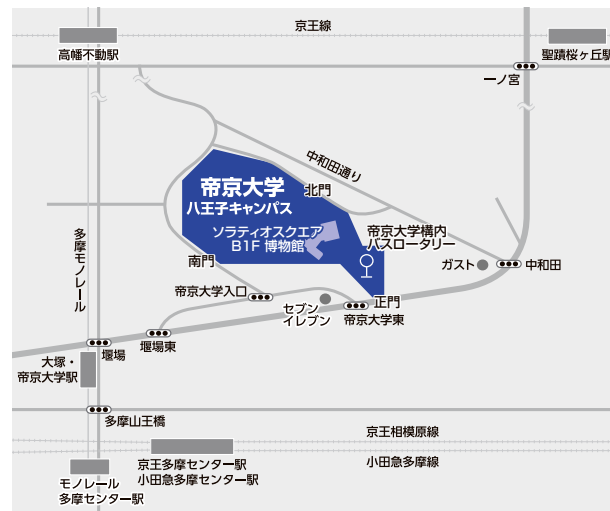


お客様へのお願い

すべてのお客様が快適にご観覧いただけるよう、展示資料のより良い保存環境を保つため、以下のことをお守りください。

- 飲食はご遠慮ください。
- 大きな声でのお話は、他のお客様へのご迷惑となりますのでご遠慮ください。
- 動植物の持ち込みはご遠慮ください。
- 展示資料保護のため、ボールペンやサインペンの使用はご遠慮ください(鉛筆は可)。
- 防犯用カメラを設置しております。何卒ご了承ください。
- 盲導犬、介助犬、聴導犬を伴ってのご入館が可能です。
- 写真撮影は可能です(博物館スタッフにお声がけください)。
- 災害時は博物館スタッフの指示に従って避難してください。
- 火災時にハロンガス消火装置が作動します。

帝京大学総合博物館 利用案内



- *公共交通機関をご利用ください。
高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘駅・多摩センター駅から「帝京大学構内」行きのバスが便利です。
- *車いすでご来館予定の方は事前にご連絡ください。

開館時間／9:00～17:00 (最終入館は16:30)
開館日／月曜日～土曜日
休館日／日曜日・祝日・創立記念日・臨時休館日
入館無料

※休館日は事務室が閉室となり、お電話等の対応はできかねます。
あらかじめご了承ください。

※日曜・祝日に開館する場合があります。
詳しくは博物館ホームページをご覧ください。
(https://www.teikyo-u.ac.jp/campus/hachioji_campus/museum)

   「帝京大学総合博物館」で検索!

帝京大学総合博物館 **TUM**
Teikyo University Museum
八王子キャンパス ソラティオスクエア B1F

東京都八王子市大塚359番地 TEL/042-678-3675

2021年3月改訂発行



ごあいさつ

帝京大学総合博物館は、2015(平成27)年9月、ソラティオスクエア地下1階に開館しました。本学は、医・薬・経済・法・文・外国語・教育・理工・医療技術・福岡医療技術の10学部を擁し、各種大学院をはじめ、各種研究所・研究センターも設置されている総合大学であり、「大学総合博物館」に相応しい体制が整っています。また、多くの優れた教員・研究者が活動しており、ここから発信される様々な学術研究の成果は膨大です。中には直接社会に寄与する研究も少なくありません。

本博物館は、そこからもたらされる各種学術研究の成果を基に、企画展示やイベントなどを通して、本学学生の教育はもとより、一般社会や地域社会へもその成果を還元することができればと考えています。皆様には是非一度ご来館を賜り、本博物館の活動にご理解とご支援をいただければ幸いです。



※帝京大学関係資料収集についてのお願い

総合博物館では、帝京大学(帝京商業学校をはじめとする前身校・関連校、幼稚園から大学院まで設置する全ての教育機関を含む)についての様々な資料を収集しています。写真(アルバム)、映像、記念品、学内刊行物、時間割、受験票、制服、サークル資料など、帝京大学の歴史に関する資料がございましたら、当館へ寄贈・情報提供いただけますようお願いいたします。また、多摩地域に関わる資料や学術的に貴重な資料の寄贈についても、学芸員が調査の上、博物館資料として受け入れられるかどうか判断いたしますので、ご一報くだされば幸いです。

TUM
TEIKYO
UNIVERSITY
MUSEUM

帝京大学総合博物館
Teikyo University Museum



■ 帝京History

帝京大学の原点は、1931(昭和6)年、「実践的教育」を方針とした帝京商業学校の創立にさかのぼります。

戦中・戦後の混乱期を乗り越え、その教育精神を受け継ぐ高等教育機関として、1966(昭和41)年に帝京大学が東京都八王子市に開学しました。開学当初は、文学部・経済学部の2学部からスタートした本学ですが、今日までに文系・理系・医療系の学部をもつ総合大学に発展しました。

本展示では、帝京大学の歴史を当時の写真や実物資料、映像を交えて紹介します。

■ 帝京Now

ラグビー部をはじめとした強化指定クラブの活躍や、各キャンパスで行われている最先端の教育・研究活動の成果、さらに特色のある学生活動の様子を紹介します。現在の帝京大学の姿をご覧ください。



企画展

最新の研究成果や学生の活動を紹介します。

帝京大学の所蔵する学術資料や芸術作品、最先端の研究成果などを、年数回の企画展を通じて広く一般公開しています。そのほか、学生自らが博物館を活用し、情報発信を实践する場としても展示室を活用しています。



帝京大学理工学部創設30周年記念「理工学部のラボのなか!ーコトワリとワザの探究ー」

■ 多摩の小さな自然

多摩地域は、山地や丘陵、台地、低地と多様な地形から成り立っています。そして地形に合わせた植物が育ち、その植物を食べる生き物が暮らしています。

帝京大学が位置する多摩丘陵は、落葉広葉樹の二次林が広がり、尾根部と谷部とが入り組んだ「谷戸」と呼ばれる地形に湧き出る水が、豊かな自然環境を育んできました。丘陵では様々な鳥や小動物たちと、生息範囲が狭まっているムササビは高尾山など山地で、魚や水生昆虫などを食べるヤマセミは川や池で出会うことができます。

本展示では多摩地域の地形が形成された太古の歴史から現在の帝京大学周辺の小さな自然へと視点を移し、地形・植物・生き物三者の関係を紹介しています。



■ AR多摩さんぽ

床一面にしきつめられた多摩地域の航空写真は建物が一軒一軒識別できる大きさです。展示室に設置した専用タブレットを多摩地域の歴史・文化・自然に関するスポットで使うと、AR(拡張現実)を体験できます。

■ 発掘されたキャンパス内遺跡

帝京大学構内では2017年時点までに上つ原遺跡や竜ヶ峰遺跡、大塚日向遺跡の発掘調査が行われ、旧石器時代から近代・現代までの多摩丘陵史を編むことができる数々の考古資料が発見されています。これらの遺跡からは動物の狩りを目的とした縄文時代の「陥し穴」や竪穴建物、古墳時代のムラ、奈良時代の横穴墓、さらに平安時代のムラの一部が発見されました。本展示では上つ原遺跡と竜ヶ峰遺跡を中心に、発掘された資料を時代ごとに紹介しています。



赤彩球胴甕 9世紀 (帝京大学保管)

なかでも、上つ原遺跡で出土した北東北固有の土器である「赤彩球胴甕」は、8世紀後半から9世紀前半に「俘囚・夷俘」として、当時の東北民が他国へ強制移住させられたことを示す資料です。



大塚村村絵図 江戸時代 (個人蔵)

■ 江戸時代の大塚村

現在、帝京大学八王子キャンパスがある東京都八王子市大塚は江戸時代、大塚村と呼ばれていました。

本学は、検地帳・宗門人別改帳・村明細帳などからなる「武蔵国多摩郡大塚村文書」を所蔵しています。本学所蔵および市域に現存する史料を使用して、江戸時代における大塚地域の歴史について紹介します。